

平成28年度外部評価結果

外部評価委員会健康・栄養研究分科会

平成29年3月21日（火）実施

平成 28 年度 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
外部研究評価委員会健康・栄養分科会

平成 29 年 3 月 21 日(火)

【評価結果】

- 研究成果そのものに関しては、限られた少ない人数の中で非常に大きな成果が出ていることを高く評価する。
- 研究者一人一人のクオリティーも非常に高い。
- 動物を使った試験に加えて、ヒトを使った研究も進展しているので、その方面での研究成果の創出に期待する。
- 臨床栄養の分野でもすぐれた研究成果が出ているが、医薬品の創出だけではなくて、栄養因子の視点から食生活の改善にも活用できる研究成果の創出に期待する。
- 政策研究という観点からの視点、新規性のある成果はどれかという視点を明確にしてプレゼンテーションを行い、より魅力ある研究所、魅力ある組織、魅力ある成果を外部に発信していくことを期待する。
- 4月の研究部・センターの再編を踏まえて、研究部・センター間の連携をさらに深めることを期待する。
- 4月以降の活動について、研究所のトップが組織としての役割をきちっと出し、研究所が目指すべきところを明確にして、重みづけをした取り組みを行い、減り張りをつけた見せ方、発表の仕方に心がけていくことにより、さらに社会に貢献できる研究所になることを期待する。

栄養疫学研究部		栄養教育研究部		健康増進研究部	
評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント
4.0	平成28年度計画は達成度100%であり、確実に進められている。 国民健康・栄養調査結果の「見える化」の公表はデータを幅広く利用されることになり、今後に期待できる。是非利用可能であることを情報発信して欲しい。 災害時における食事格差に関する検討は今後の災害時に役立つ内容と思われる。今後の備蓄対策に繋げて欲しい。	4.0	栄養ケアマネジメント研究室は新しい研究も入り、経過途中の観があるが、計画どおりに進められている。 Shizuoka StudyやKameoka Studyデータによる解析など他の研究部との共同フィールド研究は研究所のあるべき型と思う。 栄養ケアマネジメント研究室、食育研究室とも今後も栄養素としての解析だけでなく、食事としての解析を継続して欲しい。	5.0	各研究室とも成果が見られ、評価できる。 多岐にわたる研究がなされており、各が実践的である。 現場で使用できるような対応までを期待する。
3.5	十分な成果が得られていると考える。 「見える化」したことの成果の評価・フィードバックはどのように？	3.5	論文文化を着実にやって下さい。(仕事量は十分と考えます。) 社会実装も着実になされている。(食育白書に成果を掲載)	3.8	有用な成果が得られている。論文成果も多い。 出口(成果の)をより分かりやすく解説して貰えると有り難い。
4.0	災害時の食のあり方への示唆は有益であろう。実際の災害時のためのシステム作りが今後は必要であろう。 国民健康・栄養調査の「見える化」は良いが、実際への使い方への繋ぎ方は？ 要は単なるまとめだけでなく、重要な点をアピールして欲しい。	5.0	食生活の高齢者の課題抽出を早くまとめると良い。 食事バランスガイドの要点は何ですか？ この重要性があるのなら、より明確に宣伝すると良いのではないか。実社会への分かりやすいアピールを期待したい。	5.0	遺伝子要因との解析成果は面白いが、この因子と後的要因とがどの様に最終成果に繋がるかが分ると面白い。 Fit-Fatの複合化が面白い。非肥満者へとの対応因子も繋げると良い。 全身持久力に関する今後のあり方に注目したい。
5.0	年次推移に関する解析が積極的に行われている。 国の第二次健康日本21評価事業に携わるなど貢献が大きい。 次期策定(健康日本21, 食事摂取基準)を視野に入れている点が優れている。 周産期エビゲノムの研究など学術的に優れた研究成果が現れている。 災害栄養への貢献も注目される。 調査結果の見える化は重要であるので今後も力を入れて頂きたい。	5.0	高齢者に必要な栄養についてのコホート研究が意欲的に行われている。 どの様にして食生活などの変容に繋げていけるかが考察されるとなお良い。 身体が虚弱な疾患罹患患者についての栄養摂取が取組まれていることが評価される。 食事バランスガイドの有効性検証は栄養教育のテーマに良く合っている。	5.0	身体活動に関する評価が着実にできている。 体力と健康との関連がよく調べられている。 シナジー研究が有効に活用され、行動科学の手法も旨く取り入れられている。 NEXIS における研究活動が精力的である。 持久力について注目して発信していることが評価できる。
4.0	スライドからの評価になります。	3.0		4.0	個別的に成果は出ている。 評価法に工夫は必要か。また、筋肉の変化と食事因子の検討も必要ではないか。
4.1		4.1		4.6	

基礎栄養研究部		臨床栄養研究部		食品保健機能研究部	
評点	コメント	評点	コメント	評点	コメント
4.0	エネルギー産生量及び基質の1日推移の研究は動物だけに止まらず、人の研究にも繋げて欲しい。 食事摂取基準の高齢者は70歳以上と1区分のみだが、生活環境の違いなどによるエネルギー消費量や身体活動量の研究は、高齢者の食事摂取基準検討に寄与でき、評価できる。	5.0	平成28年度計画については達成率も高く、評価できる。 今後の展望で示されている個人への対応については、4年を中途に検討していくとのことで、今後の成果を期待する。 今後も引き続きデータベースの蓄積及び多くの場での使用についての検討を行って欲しい。	5.0	分析精度管理に関する取組は以前より実施されているが、重要項目であることから継続した研究を望む。 カンゾウ含有健康食品についての研究は興味深い。
3.0	一般の人にも成果が理解して貰えるよう、専門用語を使うときは解説を加えて下さい。 概ね妥当な成果が得られていると考えます。	3.0	仕事量としては十分であると考ええる。 出口をより分かりやすく解説して貰えると有り難い。 データベースの完成に期待します。	4.0	分かりやすい説明になっている。 十分な成果が得られているものと考える。 他機関との連携による成果も高く評価できる。
3.0	基礎的な情報の整理は良くできているが、まだ、これから成果に繋がるところで、これからの発展を期待したい。	4.0	統合データベースの最終構築が早くできるのが望ましい。バイオマーカとなる因子は早めに重点的に出すと良い。 全データも重要だが、基本因子を早く出して、ある程度の結論を予測させて欲しい。	3.0	分析精度管理はこれから。 JAZF1は成果がほぼ予想される。 一定の成果を上げるためのステップバイステップが感じられる。 その中でエストロゲン活性の検出が進みつつあるのは評価できる。 これを広く広報していくことが重要。
4.0	中高年者の介入研究が興味深い。 マウスに関する代謝研究は貴重な結果が出ているが、メタボリックシンドロームの発症過程に関する洞察があるとなお良い。 高齢者、有疾患者のエネルギー代謝に関する成果が興味深い。	5.0	2型糖尿病に関する遺伝的研究が優れている。国際競争力が十分である。 創薬に対して大変有益な知見が得られているが、臨床栄養にどう活用できるか、食生活の改善にどう寄与できるかが示されていない。 栄養療法研究室においても大変高度な研究が行われている。 健康寿命延伸、身体活動と栄養の相互作用などにどの様に知見が活かされていくか分ると良い。	5.0	特別用途食品の審査に関わっている点が評価される。新しい分析手法の開発が意欲的である。 抗酸化能データベースは消費者の立場でも関心の高い内容と考える。意義が大きいため公表が望まれる。 健康食品のエストロゲン活性など危機感を感じさせる成果は必要に応じて周知していく必要があろう。ガンゾウのように購入が容易な製品の効果研究は重要である。 シナジー研究の成果が上がっている。
4.0		5.0	最先端の研究を進めている。 薬剤ではなくて食事因子に眼を向けた研究をお願いしたい。	4.0	優れた研究成果を出すとともに国の仕事を併せ行っている点
3.6		4.4		4.2	

平成28年度 外部評価委員会 委員コメント

情報センター		国際産学連携センター		平均
評点	コメント	評点	コメント	
5.0	<p>人数の少ない中で外部からの問合せなど手間の掛かることにも対応しており評価できる。</p> <p>アクセス数が増加しており、情報源としての研究所の存在が認められる。</p> <p>新しい情報発信も取り入れているが、合わせてセキュリティーの充実にも継続して欲しい。</p>	4.0	<p>海外の研究機関との交流・共同研究や研修受入れ等、多岐にわたり研究や研修が行われており、評価できる。</p> <p>アジアの中での研究所の立ち位置などがもう少し見えると良かった。</p>	4.5
4.0	<p>十分な成果が得られている。</p> <p>データベースの進化が見えます。(公開手法についても)</p> <p>分かりやすい成果の公表に努めていることは高く評価できる。</p> <p>成果をいかに分かりやすく国民に知って貰うかが大きな課題となっている中で、とても参考になる取り組みです。</p>	3.5	<p>着実に成果が出ていると考える。(幅広い分野で)</p>	3.5
5.0	<p>センターとしての健康食品データベース集積が始まっている。</p> <p>安全性に加え、経済的被害の防止を加えているのは評価できる。</p> <p>データベース、フェイスブックの利用まで発展しているのは評価できる。</p>	4.0	<p>予算の割には良い活動を展開している。</p> <p>ただ何が、この機関として重点化していて、これが目玉であるという重み付けをすると良いと感じる。</p>	4.1
4.0	<p>シナジー研究において医薬品と健康食品の相互作用という着眼が素晴らしい。良い成果が得られていくことが期待される。</p> <p>健康被害のみならず、有効性があまりないことからの経済被害の研究が行われていることが評価される。</p> <p>定型的業務に加えて論文発表もなされていることが評価される。</p> <p>健康被害の情報収集と迅速な対応が評価される。</p>	4.0	<p>WHO協力センターとしての機能を十分に果たしている。</p> <p>生活習慣病者の健康格差について意欲的であり優れた結果が出ている。</p> <p>所内の共同研究が活発である。</p>	4.6
5.0	<p>成果が上がっている。更に発展を望みたい。</p>	3.0	<p>幅広い分野にわたって研究を進めている点。</p> <p>重点的な点を絞った方が良いのではないか。</p>	4.0
4.6		3.7		4.2

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所外部評価委員会
健康・栄養研究分科会 委員名簿

委員氏名	所属機関名及び職名
伊藤 裕	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 教授
逢坂 哲彌	早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 名誉機構長 特任研究教授
加藤 則子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科 教授
川島 由紀子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部 参与
近藤 和雄	東洋大学食環境科学部健康栄養学科 教授
下光 輝一	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長
鍋谷 浩志	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門 部門長
三保谷 智子	女子栄養大学香川昇三・綾記念展示室 課長

※敬称略、五十音順 任期:委員の委嘱承認の日～平成29年3月31日(2年)